

検診から発見された癌症例の確定までの期間についての検討

検診から発見された癌症例の確定までの期間についての検討

○室井祥江¹⁾ 佐藤丈晴¹⁾ 佐藤美賀子¹⁾

神尾淳子¹⁾ 田中瑞子²⁾ 森村 豊³⁾

5 公益財団法人福島県保健衛生協会¹⁾

公立大学法人福島県立医科大学医学部基礎病理学講座²⁾

一般財団法人慈山会坪井病院婦人科³⁾

【はじめに】集検喀痰細胞診では肺癌の他に
10 上気道癌が発見される場合がある。今回は要精検（D判定、E判定）となり、その後、肺扁平上皮癌と上気道癌が発見された症例について、発生部位等の違いにより検診受診日から癌確定に至るまでに要する期間に差がある
15 のか否かについて検討した。

【対象】平成7年～24年度までの18年間に実施した住民検診の受診者は延べ144,054件で、要精検とした400件の中から予後調査により170件の癌が発見された。この中で、日数が確定

検診から発見された癌症例の確定までの期間についての検討

20 された原発性肺癌の扁平上皮癌106件（肺門部52件、末梢部42件、部位不明12件）と上気道癌11件（喉頭癌7件、咽頭癌4件）の合計117件（D判定30件、E判定87件）を対象とした。

25 【方法】癌発見状況を精検結果および当施設で入手しえた予後情報をもとに、検診受診日から癌が確定されるまでの日数を調査した。

それらについて、発生部位別、進行期別、判定別の比較を行った。発生部位別では肺扁平
30 上皮癌を肺門部と末梢部、上気道癌を喉頭部と咽頭部に分けた。また、進行期別では、肺扁平上皮癌肺門部と末梢部についてそれぞれI期（0期含む）とII期以上とした。

【結果】癌確定までの期間について、肺扁平
35 上皮癌は、肺門部I期（0期含む）が平均133

検診から発見された癌症例の確定までの期間についての検討

日（最少24～最大503日）、末梢部Ⅰ期が平均204日（18～788日）、肺門部Ⅱ期以上が平均136日（10～786日）、末梢部Ⅱ期以上が平均61日（10～157日）であった。喉頭癌は平均466日（28～1378日）、咽頭癌は平均369日（47～708日）であった。癌が確定されるまでの平均日数は、肺扁平上皮癌よりも上気道癌の方が長かった。Log Rank検定でも有意差が認められた（ $P=0.0064$ ）。判定別では、D判定が平均180日（22～790日）、E判定が平均165日（10～1378日）であった。

【まとめ】癌確定症例では、発生部位や進行期によって発見までの期間が異なっており、中には長い経過をたどる症例もみられた。また、判定別では、E判定よりもD判定の方が長い期間を要していた。一回の精密検査で異

検診から発見された癌症例の確定までの期間についての検討

常が認められなかった場合でも、上気道の精
査や十分な経過観察を継続して行うことが重

55 要であると思われた。